

健康経営 その先へ (16)

従業員の心と身体を健康を目指す「健康経営」と対比する意味で、「ウェルビーイング経営」という言葉が使われ始めている。健康経営よりも広い概念で、従業員の人生や生活の健康度、満足度、幸福感に焦点を当てる取り組みを指す。論者によって意味づけは異なるようだが、ここではその定義を論ずることはせずに、あくまでも前述の取り組みを指す言葉として使う。

そもそも「ウェルビーイング」とは、世界保健機関（WHO）が1948年に発効した憲章において、「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態（ウェルビーイング）にあることをいう」としたことが起源とされている。また、米国の疾病予防管理センター（CDC）は、身体、心理、経済、社会それぞれのウェルビーイングがあり、生活満足度、仕事や社会への参画といった多様な要素によって構成される

としている。

ウェルビーイングという視点から捉えると、「健康経営」が目的とする心と身体を健康は、人々の幸福感や満足度を構成する要素の一部ということになる。ウェルビーイングを高めるには、健康以外の様々な要素も高めていく必要がある。また、ウェルビーイングを構成する要素はそれぞれ密接に関連し合っているという視点も重要になる。

この連載でも触れたが、米国の企業は健康だけでなく従業員の経済的な課題や生活上の課題の解決を支援するプログラムを提供するようになってきている。さらに、これらのプログラムは、ワークライフバランスや業務外での社会参画支援などとも結びついて従業員への統合的な支援プログラムと考えられている。

こうした企業の一つがジョンソン・エンド・ジョンソン（J&J）である。同社のプログラムの中核が、「エネルギー・フォー・パフォーマンス（E4P）」という半日から2日間かけて従業員向けに行われる研修である。この研修では、心と身体を健康を自己実現の手段と位置付け、自身の力で健康度を向上させる手法の習得を目指すという。

研修の主眼は、従業員自身を持っている力に働きかけ、それを引き出そうとしている点にある。E4Pは米国だけでなく、同社が事業展開している世界各地で開催している。E4Pを軸として、心と身体を健康増進・疾病予防のための各種プログラム、育児・介護を行う従業員の支援、資産管理・退職プランの作成支援など多様なプログラムを柔軟な働き方と組み合わせ提供している。

従業員の幸福度を追求

